

授業科目	日常生活活動学				
担当者	相原一貴（実務経験者）				
実務経験者の概要	理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

日常生活活動学では、我々が普段意識することなく行っている日常生活が、理学療法において重要な評価・介入対象であることを学びます。そして、理学療法士として専門的な視点における日常生活の捉え方を学びます。

主な疾患や病態における日常生活の特徴並びに介助方法や指導方法について学習します。

■ 到達目標

- ・日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な自助具や福祉機器について理解する。
- ・各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。
- ・疾患や障害と日常生活との関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動（ADL）の概念と範囲
- 第2回 基本的 ADL と生活の質（QOL）
- 第3回 ADL の評価①（代表的な評価方法について：Barthel Index）
- 第4回 ADL の評価②（代表的な評価方法について：FIM）
- 第5回 ADL の評価③
- 第6回 福祉機器や生活環境
- 第7回 片麻痺患者の ADL
- 第8回 整形疾患患者の ADL

■ 評価方法

科目試験〔筆記試験〕（70%）、小テスト（15%）、提出課題（15%）
 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）
 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
 理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL
 著者名：柴喜崇、下田信明／著
 出版社：羊土社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）

著者名：鶴見隆正編

出版社：医歯薬出版

書名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－

著者名：伊藤利之、江藤文夫／著

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。